

富津市中央公民館 子ども鉄道教室

地域周辺の鉄道の現状 （地域課題）

- ①2021年：市内を走る内房線において一部列車のワンマン化及び両数減。
- ②2023年：利用者減少が続く久留里線の久留里駅～上総亀山駅間について、JR 東日本から行政へ今後の総合的な交通体系に関する議論の申し出。
このように当地域の鉄道は縮小のおそれを抱えている。

専門の講師（地域人材）

市内在住でテレビにもよく出演されている鉄道ジャーナリストの梅原 淳 氏。
郊外にある本市においては、連携できる大学や専門的な施設がない中、地域にいる専門の方は貴重な人材である。

子どもたちの興味関心（学習ニーズ）

当教室は毎年夏休み期間中、「子どもチャレンジ教室」と銘打って、子どもたちを対象に年ごとにテーマを設定し、実施している。
今年は、小さい子は乗り物が好きという見立てのもと、左記の「地域課題」「地域人材」とのマッチングを意識して、「鉄道」をテーマにし、算数・理科などの知識を混ぜ込む。

公民館としてできること（講座のねらい）

子どもたちが鉄道に親しむ機会を設けることによって、当地域における鉄道の必要性を理解するほか、多少ながらも今後の利用頻度の向上につなげる。

対象 市内の小学生と保護者（低学年は同伴必須）

第1回 富津市中央公民館での座学
7月30日(日) 10:00～11:30

①鉄道の定義

どれが鉄道？内房線は？新幹線は？モノレールは？
リニアモーターカーは？ロープウェイは？

②鉄道の特性

自動車とは比べ物にならないくらい、一度に多くの人や物を時間どおりに素早く運べる。決まった場所しか走ることができず、乗客や荷物が少ないと赤字になる。 など

③列車が少ない力で動く仕組み【理科】

鉄道模型を使って、自動車のゴム製タイヤとは違い、列車の鉄製タイヤは摩擦が少ないため、少し傾けたり押すだけで簡単に進んでいくことを実演



④鉄道の変遷（蒸気機関車・ディーゼル車・電車）【社会】

⑤踏切の仕組み【算数】

踏切が鳴り始めるきっかけとなるセンサーとの距離と列車のスピードをもとに、踏切を通過するまでの時間を算出



⑥子どもたちからの質問タイム など

参加者の声（子どもたちの感想）

「みんなで鉄道に乗って楽しかった」「講師にいろいろな質問ができてよかった」「列車によって乗降ボタンが違うことがわかった」「いつも乗っている自動車ではなく、鉄道で遠くに行けてよかった」「もっと鉄道のことを教えてほしい」など ⇒参加した子どもたちから好評であり、企画した甲斐があった。

成果と課題

単に個人や家族で鉄道に乗ったり、鉄道施設を見に行くこととは異なり、専門の講師を招いて話を聞いて出かけることは子どもたちにとって良い経験・思い出になったほか、「学習ニーズ」と「地域人材」をマッチングさせるという公民館の役割を担えたと考える。一方で子ども向けに当地域の鉄道が抱える課題をわかりやすく伝える難しさを感じた。

参加者 28名（定員30名）

費用 館外学習時の運賃

第2回 久留里線上総亀山駅への館外学習
8月19日(土) 11:15～16:00

11:15 大貫駅に集合

11:31 大貫駅から各駅停車に乗車

11:50 君津駅から快速に乗換（木更津駅までは乗換なしでも行けるが、より多くの列車に乗るためあえて乗換）

12:10～12:50 木更津駅施設見学

乗換駅である木更津駅で梅原氏による転車台・車庫・留置線などの鉄道施設解説や東京・神奈川・南房総方面へ向かう列車の説明、質問タイムを実施



13:01 木更津駅から久留里線に乗車

14:11 上総亀山駅到着

14:20～14:40 上総亀山駅施設見学・集合写真撮影

久留里線に関するクイズ用紙を配付して移動中の学習、上総亀山駅で終点駅ならではの施設（車止めなど）を見学
クイズ例：単線ならではの駅でのすれ違い、小櫃駅から見える黒くて大きいものは？、久留里線の終点までにかかった時間と距離をもとに平均速度を算出 など

